

⑧ 赤十字フェアぎふ作品コンクールへの参加

平成30年11月11日

加盟校から応募していただいた絵画及び書写の「作品コンクール」の表彰式を、大垣市イオンタウンで行いました。

応募作品（絵画 100点、書写 2,537点）の中から選ばれた74点の入賞作品のうち、表彰式に参加された方に賞状を一人一人に授与しました。

会場一杯に集まった方々からは、盛大な拍手をいただいたり、授与式後には、作品の前で笑顔で記念撮影したりするなど、とても温かい表彰式となりました。

2019年度も、数多くの作品の応募をお待ちしております。（応募期間7月1日～9月中旬）



▲ 記念撮影

<赤十字フェアぎふ作品紹介>

赤坂中
二年
河本里奈
人道の精神

岐阜県知事賞
大垣市立赤坂中学校
河本里奈さん

江島中
大橋知莉
親国善際

岐阜県議会議長賞
大垣市立江並中学校
大橋知莉さん

各務原市立明
丸毛亜朱巴
救災護害

岐阜県教育委員会教育長賞
各務原市立那加中学校
丸毛亜朱巴さん



岐阜県知事賞
岐阜市立則武小学校
松久 園さん



岐阜県議会議長賞
大垣市立多良小学校
土方 悠衣奈さん



岐阜県教育委員会教育長賞
可児市立稚子小学校
横田 美乙さん

◆ 県内のJRCへの加盟状況について

(2019.3.31現在)

年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度			
	加盟校数	加盟校数	加盟校数	増減	全校数	加盟率
幼稚園、保育園	33	31	51	+20	※	※
小学校	287	292	327	+35	372	87.9%
中学校	124	131	156	+25	189	82.5%
高等学校	22	22	28	+6	86	32.6%
特別支援学校	17	17	21	+4	22	95.5%
合計	483	493	583	+90		



「青少年赤十字岐阜」

2019年4月1日発行
発行・編集 日本赤十字社岐阜県支部
〒500-8601 岐阜市西部中島2-9
TEL 058-272-3561



青少年赤十字岐阜

JUNIOR RED CROSS GIFU 2019

編集・発行



日本赤十字社 岐阜県支部
Japanese Red Cross Society

〒500-8601 岐阜市西部中島2-9
TEL 058-272-3561
http://www.gifu.jrc.or.jp/



赤十字の活動は、皆様からの社資で支えられています

~3つの実践目標~

- 命と健康を大切にする、「健康・安全」
- 社会のため人のために尽くす責任を自覚し、実行する「奉仕」
- 広く世界の青少年を知り、仲良く助け合う精神を養う「国際理解・親善」

青少年赤十字の活動を
生かした豊かな実践



岐阜県青少年赤十字指導者協議会

会長 片山 誠吾 (大垣市立牧田小学校校長)

平成30年6月に、日本赤十字社本社（東京都）で開催された青少年赤十字全国指導者協議会総会・研修会に参加しました。全国47都道府県の代表により、各県におけるJRC活動の工夫や活性化について協議され、それぞれの実情に応じた様々な工夫について交流しました。

協議の際、「岐阜県は小中学校、特別支援学校の青少年赤十字への加盟率が高いですね。どんな工夫をされているのですか。」と多くの方に質問されました。本誌の最後にも紹介されていますが、岐阜県では、平成30年度現在、小学校が約88%、特別支援学校が96%、中学校では約83%の学校が加盟しています。この割合は、全国的に見ても高く、青少年赤十字活動における岐阜県の強みの1つだといえます。

この数字は、日本赤十字岐阜県支部の取り組みの工夫と、加盟各校の青少年赤十字の活動への理解があつてのものです。岐阜県の義務教育段階の8割以上の学校が加盟しているということは、それだけ多くの児童生徒にとって赤十字の活動が身近になっているといえます。これは、たいへん意義深いことで、県内の加盟校では、青少年赤十字の活動を生かした豊かな実践がなされています。私は、「どんな工夫をしているのですか。」という質問について、主に次の2つのことを説明しました。

1つ目は、研究推進モニター校の実践が「活動事例集」として全ての学校に配布され、加盟各校がそれらを参考にしてそれぞれの教育活動に生かしていることです。教育課程の改善に当たって、青少年赤十字の理念や実践目標、態度目標を関わらせながら、防災教育プログラム等の工夫された教材を活用して教育活動の質を高めたりしています。

2つ目は、県や各地区でのリーダーシップ・トレーニング・センターに学校の代表児童生徒が参加したり、教師が指導者養成講習会に参加したりして、新鮮な体験や他校との交流で学んだことを各学校にもち帰り、広げていることです。

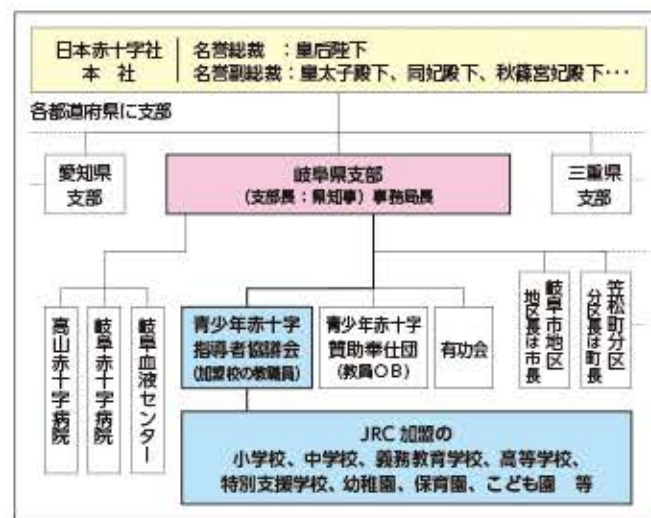
私は、この協議会に参加して、全国各地で世界の平和と人類の福祉に貢献しようという志をもった子どもたちが育っていることに感銘を受けるとともに、岐阜県の加盟校における豊かな実践のねうちを改めて自覚することができました。

最後に、今年度もご支援いただいた日本赤十字社岐阜県支部をはじめとする関係者の皆様にご心より感謝申し上げます。共に、岐阜県の青少年赤十字活動がより活発に展開されることを祈念いたします。

1 + 赤十字社について

赤十字は、アンリー・デュナン(スイス人:第1回ノーベル平和賞受賞者)が提唱した「人の命を尊重し、苦しみの中にいる者は、敵味方の区別なく救う」ことを目的とし、世界191の国と地域に広がる赤十字社・赤新月社のネットワークを生かして活動する組織です。

日本赤十字社はそのうちの一社であり、1877年の西南戦争をきっかけに佐野常民らが中心になって作られました。そして、現在では、世界各国の赤十字と手をつなぎ、赤十字の精神である「人道・博愛」の使命を実現するために、主に以下の①~③の柱のもと具体的な活動をしています。



▲日本赤十字社組織図

- ① **いのちを救う** 国際活動、国内災害救護活動、医療事業、血液事業、救急講習等
- ② **せいかつを支える** 社会福祉事業、赤十字奉仕団
- ③ **ひとを育む** 青少年赤十字活動、看護師等養成

2 青少年赤十字活動 (JRC:Junior Red Cross) について

青少年赤十字の活動は、将来を担う青少年が赤十字のことを正しく理解し、進んで赤十字運動に参加してもらい、一人一人が世界の平和と人類の福祉に貢献できるように、①「健康・安全」②「奉仕」③「国際理解・親善」の3つを「実践目標」として掲げ、日常生活の中で望ましい「人格と精神」を自らつくりあげることが目的としています。

3 日本赤十字社岐阜県支部が、青少年赤十字加盟校に対して行っている主な交付金や支援内容



- (1) **人材育成**…青少年赤十字の活動を中心となって取り組むことのできる人材の育成…(P.3参照)
 - ① 教職員対象の指導者講習会
 - ② 支部主催や各地区主催のリーダーシップ・トレーニング・センター^(※1)の実施
- (2) **主な活動助成交付金**…(P.4,5参照)
 - ① 研究推進モニター校交付金…学校におけるJRC活動に対する交付金(1校につき10万円 対象20校)
 - ② 防災教育推進事業交付金…学校における防災教育推進に対する交付金(1校につき20万円 対象2校)
 - ③ 地区協議会活動交付金…地区単位での研修会、講習会等に対する交付金(1地区につき上限8万円)
- (3) **主な活動・支援等**…(P.6~8参照)
 - ① 子ども新聞プロジェクトやモンゴルとの国際交流への子どもの参加
 - ② 救急法や水上安全法、DIG等への講師派遣(加盟校は無料)
 - ③ 「まもるいのちひろめるぼうさい」「いえまですぐらく」、図書、テント等、教材教具の無料提供
 - ④ 赤十字フェアぎふ作品コンクールへの作品募集

※1 「リーダーシップ・トレーニング・センター」とは、集団生活や活動を通して児童・生徒が周囲の状況を踏まえ自分がどのように行動すると良いか「気づき・考え・実行する」力を育むもので、青少年赤十字の最も特徴的な教育プログラムです。

ア 人材育成関係の実績報告

① 指導者養成講習会

平成30年8月8日

「平成30年度岐阜県青少年赤十字指導者養成講習会(岐阜県支部主催)」を開催したところ、講習会への参加を希望する45名の指導者(教員)に参加していただきました。

講習会では、午前に、「防災・減災センター 岐阜大学特任教授 村岡治道先生」から防災教育について、午後には、「高山赤十字病院 医師 白子順子先生」から、バングラデシュ南部避難民救援活動や学校現場で役立つ救急法について、大変有意義なお話を聞くことができました。この他にも、ハイゼックスを使った非常食の作り方に挑戦したり、骨折や捻挫をしたときの三角巾の使い方等を学んだりしていただきました。



▲ハイゼックスを使つての昼食作り



▲三角巾の使い方講習



② 支部主催のリーダーシップ・トレーニング・センター 平成30年7月24日、8月1日

岐阜県支部が主催するリーダーシップ・トレーニング・センターとして、高校生対象の「高校トレセン」と、県下の小中学生対象の「支部トレセン」を行いました。

高校トレセンでは、青少年赤十字スタディー・センター(P.4参照)に参加した大垣桜高校のメンバーによるグループワークや、岐阜赤十字病院の看護師の皆さんの指導による「癒やしのハンドケア」を学んだりしました。

支部トレセンでは、岐阜地方気象台の職員の皆さんから気象メカニズムを教えていただいたり、気象実験を行ったりしながら、災害に対する知識を深めました。また、血液センターでは、血液型を調べる実験をしたりセンター内の見学や、献血バスの中で献血の説明を聞いたりしました。



▲大垣桜高校のメンバーによるグループワーク(高校トレセン)



▲赤十字病院の看護師による「癒やしのハンドケア」(高校トレセン)



▲献血車の中での献血の説明や血液検査体験(支部トレセン)



▲岐阜地方気象台による気象実験(支部トレセン)

③ 各地区で行われたリーダーシップ・トレーニング・センター

＜損斐地区＞ 平成30年7月24日

損斐川町地域交流センターで損斐地区JRCトレセンを実施しました。損斐郡の小中学校から48名の児童生徒が参加しました。学校紹介、救急救命法の講習会、レクリエーション講習会を行い、児童生徒が楽しく研修を行いました。



▲AED体験

＜羽島地区＞ 平成30年9月15日(第1回目)、10月10日(第2回目)

笠松中央公民館にて1回目の防災デイキャンプを開催しました。羽島郡内の小中学生12名が参加し、三角巾を使った傷の手当の方法やロープワーク等を学びました。

2回目の防災デイキャンプでは、羽島郡内の小学1年生から中学校1年の40名が笠松体育館で活動しました。子どもでも運べて組み立てられ、飛んだり跳ねたりしても頑丈な「つみっく」を使って、みんなで協力して秘密基地を作ったり遊んだりするなどの活動をしました。



▲羽島郡二町の子ども防災デイキャンプの様子

④ 青少年赤十字スタディー・センター (本社工催) 平成30年3月22日～26日

全国各都道府県支部管内における高等学校青少年赤十字活動の中心となるリーダーの育成を目的として、富士山麓の山中湖畔において4泊5日の日程で行われました。県立大垣桜高等学校の生徒2名が参加し、全国の高校生と交流を深めました。ここで研修してきた成果を、夏の高校トレセンの時に発表してもらいました。



▲全国の仲間と、楽しく研修した青少年赤十字スタディー・センター

イ 活動助成関係の実績報告

① 2019年度岐阜県青少年赤十字研究推進モニター校

本事業では、青少年赤十字の実践活動の「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」に関わる様々な魅力ある活動が、加盟校においてさらに充実していくことや、県内に広まっていくことを願い、岐阜県支部では、毎年加盟校の中から研究推進モニター校を募集し、認定した20校に各10万円の活動交付金を交付しています。(右頁参照)
また、モニター校の実践は年度ごとに「活動事例集」としてまとめ、ホームページで公開を行っています。

② 青少年赤十字防災教育推進事業 (平成30年度からの新規事業)

日本赤十字社岐阜県支部では、青少年赤十字の実践目標の一つである「健康・安全」のもと、防災教育を通して学校、家庭、地域社会における防災意識を高め、人間のいのちと健康、尊厳を守ることを目指しています。
その達成に向けて、「まもるいのちひろめるぼうさい」を活用しながら、防災教育の発展・普及のため、先進的な取り組みを実践する学校を募集し、応募校の中から推進校を2校指定し、活動支援をします(1校20万円の交付金)。
2019年度の推進校は、次の2校です。

岐阜市立東長良中学校	地域と歩む「防災の街」東長良
恵那市立武並小学校	「自分の命は自分で守る」心と態度を育てる防災教育

③ 2019年度 岐阜県青少年赤十字研究推進モニター校の決定

平成30年11月～平成31年1月18日の期間、2019年度の研究推進モニター校を募集したところ、新規加盟校を含め、県下から46校の応募がありました。
「できるだけ多くの学校にモニター校としての取組をしていただくこと」「青少年赤十字の3つの実践目標との関わり」「校種や地域のバランスを勘案」等に留意し、岐阜県青少年赤十字協議会会長や副会長、賛助奉仕団の皆さん方に検討していただき、下記の学校をモニター校として2019年度指定させていただきました(1校10万円の交付金)。

No.	学校名	テーマ
1	岐阜市立鶯小学校	人と人のかかわりを大切にする活動を通して、今自分にできることを考え、積極的に発信する
2	羽島市立足近小学校	気づき、考え、実行する児童の育成
3	笠松町立笠松小学校	自他の生命(いのち)と健康を大切にして、人のために尽くし、世界の役に立つ人をめざす
4	海津市立下多度小学校	下多度地域の良さを見つけて、地域の方々と一緒に発信しよう
5	関市立桜ヶ丘小学校	桜ヶ丘小学校福祉教育活動 ～ふれあい活動～
6	美濃市立美濃小学校	誰もが幸せに暮らせる地域・社会づくりに進んで取り組む力を養う
7	美濃市立藍見小学校	相手の気持ちを考え、思いやりの心で関わり合って、人のために尽くそうとする子の育成
8	郡上市立大中小学校	ふるさと郡上(白鳥)を愛し、地域と共に生き・高まる学校
9	八百津町立錦津小学校	「自分の命は自分で守る」ことができ、「ふるさとと共に高まる」ことができる児童の育成
10	恵那市立明智小学校	地域の人々とのふれあいを通して、地域への愛着と誇りを育む
11	岐阜市立岩野田中学校	夢や希望の実現のために 自ら動く 生徒の育成 ～気づき、考え、実行する取り組みを通して～
12	岐阜市立三輪中学校	志をもって誠実に生きる～防災・減災について気づき、挑み、創る～
13	各務原市立緑陽中学校	地域を明るくする緑陽中学校
14	大垣市立星和中学校	「めくもりの街 星和」を目指し、自分にできることを考え、実践する生徒の育成
15	損斐川町立谷汲中学校	お互いの良さを認め合い、思いやりあふれる活動の創造
16	恵那市立恵那西中学校	恵那西中学校の防災教育の推進 ～「自立」・「共生」・「貢献」～
17	恵那市立岩邑中学校	「自分を守り 家族を守り 地域で支え合う」活動 防災教育を軸として
18	中津川市立蛭川中学校	生徒が主体の学校を目指して(蛭川未来創生プロジェクト)
19	高山西高等学校	ストレスを知り、ストレスと上手に付き合っていく
20	岐阜希望が丘特別支援学校	命を守るための行動を身につける～児童生徒、教職員と共に～



＜キックオフの会＞

モニター校となったことや新規加盟校になったことをきっかけに、子どもたちに青少年赤十字の具体的な目標や、自分自身はどのような役割を担うのか、どのような活動に取り組みればよいのか等を、校長先生や教頭先生、担当の先生方からわかりやすくお話ししていただく「キックオフの会」を実施してもらいました。

その結果、平成30年度は約4,000名の子どもたちが青少年赤十字について考えるきっかけをもつことができ、活動に対する意欲をもつことができました(具体例は、日本赤十字社岐阜県支部ホームページ参照)。



▲キックオフの会の一コマ

ウ 活動支援関係の実績報告

① 子ども新聞プロジェクト ～子ども記者が被災地のいまを取材～ 平成30年7月14日～16日



▲人と防災未来センター見学後、益城町の避難所等で取材を行いました

現役の新聞記者から、取材方法や記事の書き方の指導を受けた子ども記者（岐阜県JRCからは2名参加）が、今から23年前に起きた阪神・淡路大震災で起こったことを学んだり、そのことが、熊本地震にどのように生かされたりしているのかなどを取材しました。

子ども記者が、一生懸命に取材してきた内容を、夜遅くまで話し合っ作製した記事が掲載された「子ども新聞」は、9月中旬に岐阜県、愛知県、三重県の加盟小学校のすべての児童に配布されました。

2019年度も、小学校6年生対象に、このプロジェクトへの参加募集を行います（4月中旬募集開始～5月中旬締切）。

② モンゴル国の赤十字メンバーとの国際交流・親善 平成30年7月7日、8日

岐阜県支部では、国際理解と親善を目的に、愛知県支部の青少年赤十字メンバーと共にモンゴル赤十字社との交流を行っています。

平成30年度は、岐阜県のJRC加盟校の中から選ばれた中学生2名と愛知県支部の9名が参加し、愛知県美浜自然の家で交流し親交を深めることができました。

2019年度は、7月末～6日間モンゴルへ行き、親善を深めます。このプロジェクトへの参加募集を、中学生対象に行います（4月中旬募集開始～5月中旬締切予定）。



▲初めて海を見たモンゴル国の赤十字のメンバー砂でゲル（モンゴル遊牧民の移動式住居）を作りました

③ 救急法や水上安全法、災害図上訓練（DIG）等への講師派遣

中学生や小学校高学年児童の災害意識を高めたり、周囲の小さな子どもたちを率先して引き連れ安全な場所へ避難できるようにしたりする事を目的として、災害図上訓練の指導を行っています。

また、水の事故から人命を守るため、泳ぎの基本・水難事故防止・人工呼吸などを学んだり、海や川など着衣のまま水から自分の生命を守ることができるようにするための訓練等も行ったりしています。

指導に当たっては、専門の訓練を受けた日本赤十字社岐阜県支部の職員やボランティア指導員等が学校に出向き、無料で指導を行います。



▲自分の住んでいる場所の危険場所を知ろう

④ 防災教材「まもるいのち ひろめるぼうさい」教材教具の無料提供

○ 青少年赤十字の防災教育について

平成27年度～

青少年赤十字では、防災教育を通じて青少年の健康と安全を守り、学校、家庭、地域における防災意識の向上を目指す「青少年赤十字防災教育事業」に取り組んでいます。

大規模な自然災害に備えるためには、未来を担う子どもたちにこそ、正しい災害の知識を伝え「自分の命は自分で守る」という防災の意識を高めてもらうことが重要です。

そのため、防災に有効な専門的な知見を数多く有している気象庁とも連携し、「いのちの大切さ」や「コミュニケーション力」を養うことのできる防災教育プログラム（教材）「まもるいのち ひろめるぼうさい」を小中高の教員と共に制作しましたので、是非ご活用ください。

平成27年度に、すべての学校に1冊ずつ配布済ですが、さらに必要な場合は、日本赤十字社岐阜県支部まで、お問い合わせいただければ無料で提供させていただきます。



⑤ 学校へテントを整備

平成30年7月18日



▲テントの贈呈式

毎年、青少年赤十字に新規に加盟いただいた学校（園）に対し、防災対策の強化や学校行事等に活用をしていただくことを目的に、ワンタッチテント（3m×3m）を贈呈しています。

今年度は、平成28・29年度に新規加盟された40校を代表して、岐阜県立岐阜希望が丘特別支援学校においてテント贈呈式を行いました。

代表の生徒さんから、「水泳の授業や学校の行事、災害時に大切に使います。」とお礼の言葉がありました。また、乙部校長先生からは、本支部に対して感謝状をいただきました。

⑥ 岐阜県赤十字有功会から加盟校へ図書贈呈

平成31年2月18日

子どもたちに豊かな心を育んでもらうことや、赤十字について知ってもらうことを目的として、岐阜県赤十字有功会^{※2}から青少年赤十字加盟校583校の内、平成30年度贈呈対象校47校に図書を贈呈しました。

平成31年2月18日、県内受領校を代表して、新規加盟校の美濃市立美濃小学校（2019年度モニター校）で贈呈式が行われ、図書委員長の押川緋沙那さん（6年）と副委員長の森森太郎君（6年）に、有功会を代表して岐阜信用金庫美濃支店長 笠井真人様から図書が贈呈されました。（「ちきゅうのなかまたち」シリーズ 秋篠宮 紀子さま訳 5冊）

代表の児童からは、「この本を多くの子が読んでくれると思うので、とても嬉しいです。そして、この本を読んで、ますます美濃小学校が良くなると思います。ありがとうございました。」とお礼の言葉がありました。

（※2 有功会とは、有功章を受章された方々が、お互いの親睦と交流を図り、日本赤十字社の活動支援を行っていただくための有志の方々による支援団体です）



▲図書の贈呈（美濃市立美濃小学校 校長室）



▲小学校に贈呈

▲中学校に贈呈

⑦ 募金活動

平成30年12月1日、15日

JR岐阜駅北口で岐阜総合学園高校と岐阜農林高校の青少年赤十字メンバーより、NHK海外たすけあいキャンペーンの募金活動をボランティアで実施してもらいました。

冬空の下、紛争や災害、病気で苦しむ人びとを救うため、大きな声で募金の協力を呼びかけ、大勢の方の協力を得て、2日間で、51,996円の募金が集まりました。

メンバーたちは、この活動を通じ、世界中の人と支え合う事の大切さを感じていました。



▲「ご協力お願いします」



▲「ご協力 ありがとうございます。」

